

邯鄲諸國物語

三四

~13
3223
30



天保六年乙未孟春發行

八十三
3223
30

邯鄲

諸國物語

大和卷前帙

種彦作

國貞画

天保乙未三編

新彫

榮久堂梓



邯鄲諸國物語

大和卷
前帙

柳亭種彦作 歌川國貞画



よ一町
親仁橋
榮久堂
山本
平吉梓

種彦法國物語

大和の
巻首法下



香蝶

挿画



種彦諸國物語

大和の
巻首帳上

天保六年

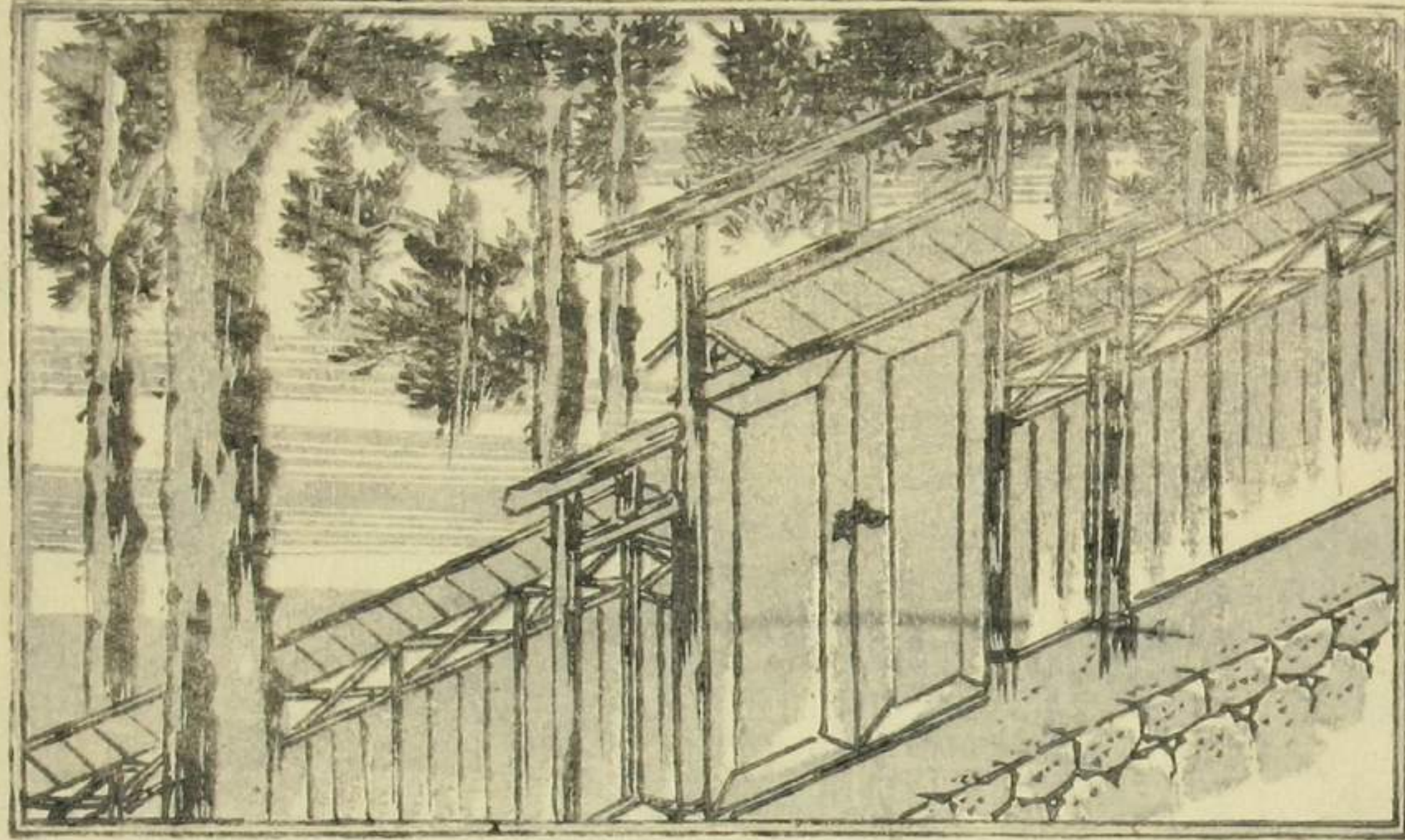
乙未孟陽



歌川國貞画



天保八年丁酉發春



歌柳亭種彦作
川國貞画
物語 大和の巻 後帙上
邯鄲諸國

東都親仁稿

榮久堂製本



奉の近江の巻の發まきとてこの編むるは
遊さんにも大和の國をまきとてこの一條の巻の
大和の巻前帙下冊

かん多む
諸ふ
もれ
種彦作
國貞画
榮久堂
梓行

種彦法國物語

大和
卷後下



香蝶梅屋

種彦諸國物語

大和
卷後下



歌川國貞畫

種彦作 國史圖



山本

平吉

壽梓

邯鄲諸國物語大和卷前帙
物かきり

大和の卷
後帙下

邯鄲諸國物語大和卷前帙

忠臣不事二君 貞女不更二夫 夫誰とも知る史記田單

附傳王蠋が詞あり是卷ハ鍾三郎が二君ニ事テ災禍

其身を亡し小篠が二夫を更テ苦辛なるの談柄ありて

巢林子二万翁の冊子より出されども惡を記し善戒を垂

トを旨趣として事實の如く編りしハ淨瑠璃かぶきく小准へ

繪ざりしより殊更興る繪様も又花弄るる種と竹馬芥雜の

かへて童子の翫弄と志ありて勸善の端ともあらん歎

天保六年乙未發春

柳亭種彦





鐘三郎の
 亡妻
 小佐美
 夫の
 夢の
 小
 会
 ち

魂散三十里
 神交八百秋



旅の女
 小篠のち
 鐘云の後妻

後落窪鐘云
 具

醫者
天原流
波

鍾二郎の子
落窪
京太郎



難波新町の
婿家
玉柏屋の娘
於谷



Handwritten text in the top left corner of the left page, including a small box with the number '11'.



Handwritten text in the bottom left corner of the left page, including a small box with the number '11'.

Handwritten text in the top right corner of the left page.

Handwritten text in the middle right corner of the left page.

Handwritten text in the bottom right corner of the left page.



Handwritten text in the bottom right corner of the right page.



部 三

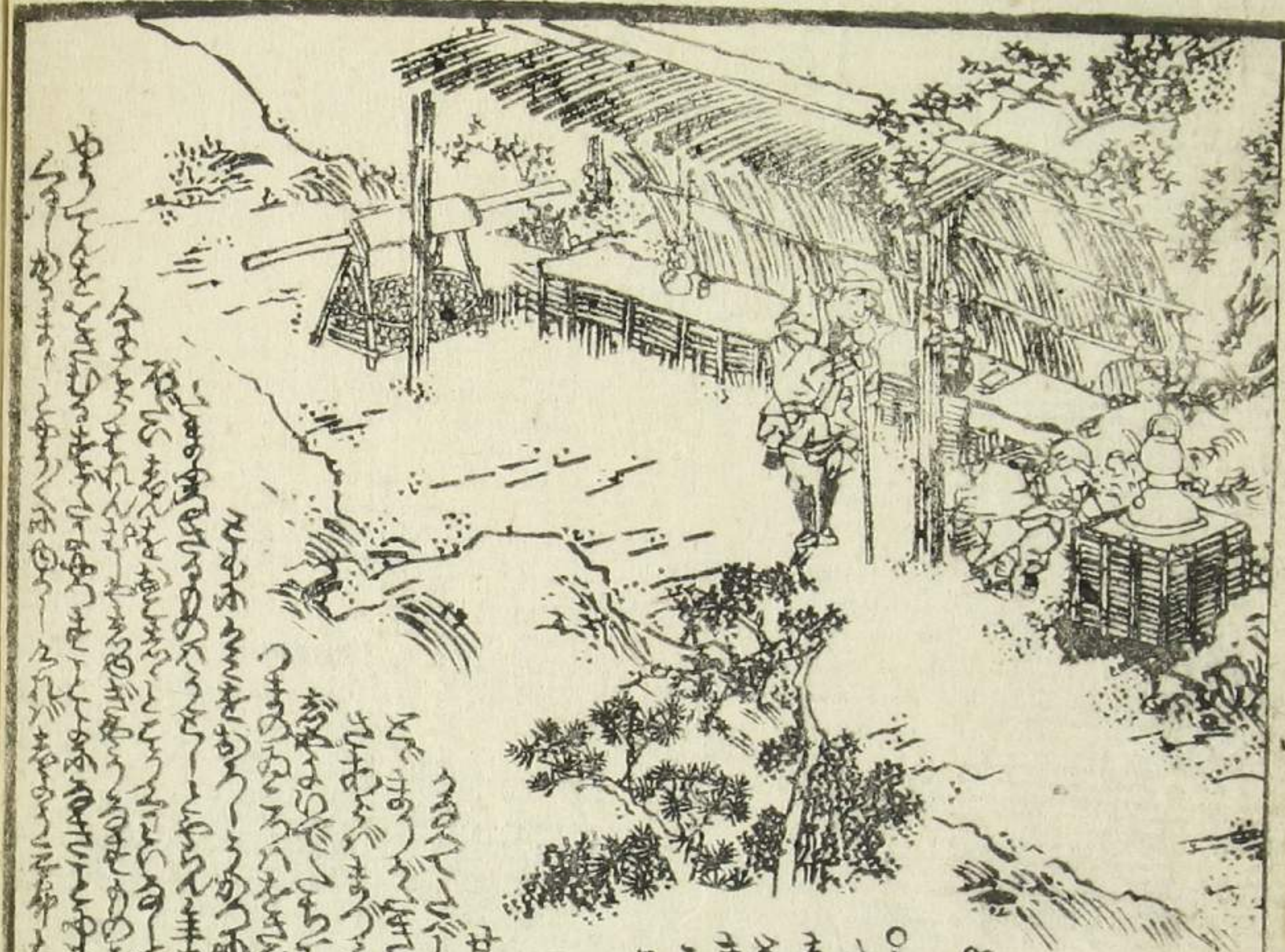
此の山は... 鐘... 京を...



部 三

梅... 山... 京...

榮久堂刊行藏板略目



此の巻は、榮久堂の刊行する蔵板の略目である。右の欄には、各巻の題名と、その内容の概要が記されている。左の欄には、各巻の著者や、その巻の特色が記されている。

源氏物語の巻は、源氏物語の全巻を収録している。また、源氏物語の巻には、源氏物語の巻の特色が記されている。

源氏物語の巻は、源氏物語の全巻を収録している。また、源氏物語の巻には、源氏物語の巻の特色が記されている。

源氏物語の巻は、源氏物語の全巻を収録している。また、源氏物語の巻には、源氏物語の巻の特色が記されている。

永花百人一首文十抄

昔書 繪抄

源氏十帖

彩色 繪

御詠染逢山鹿子

六編揃

源氏物語の巻は、源氏物語の全巻を収録している。また、源氏物語の巻には、源氏物語の巻の特色が記されている。

源氏物語の巻は、源氏物語の全巻を収録している。また、源氏物語の巻には、源氏物語の巻の特色が記されている。

源氏物語の巻は、源氏物語の全巻を収録している。また、源氏物語の巻には、源氏物語の巻の特色が記されている。

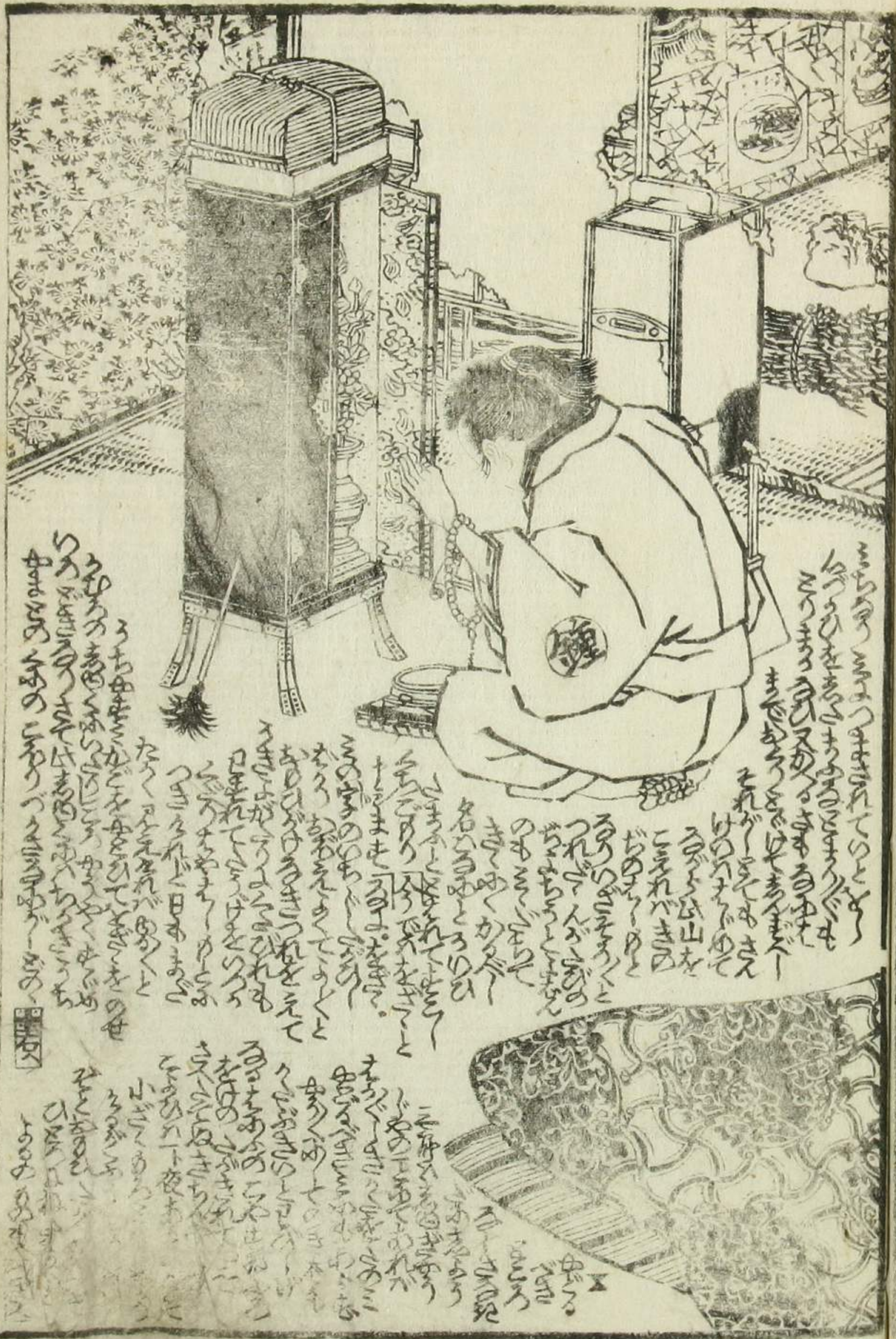
縁結妹脊双六

この巻は、縁結妹脊双六の巻である。縁結妹脊双六とは、縁結妹の脊を双六の駒として遊ぶという遊びのことである。この巻には、縁結妹の姿や、双六の駒などが描かれている。

東都錦繪所

江戸

町ちやら橋角 山本平吉梓



Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style and appears to be a narrative or commentary related to the scene.

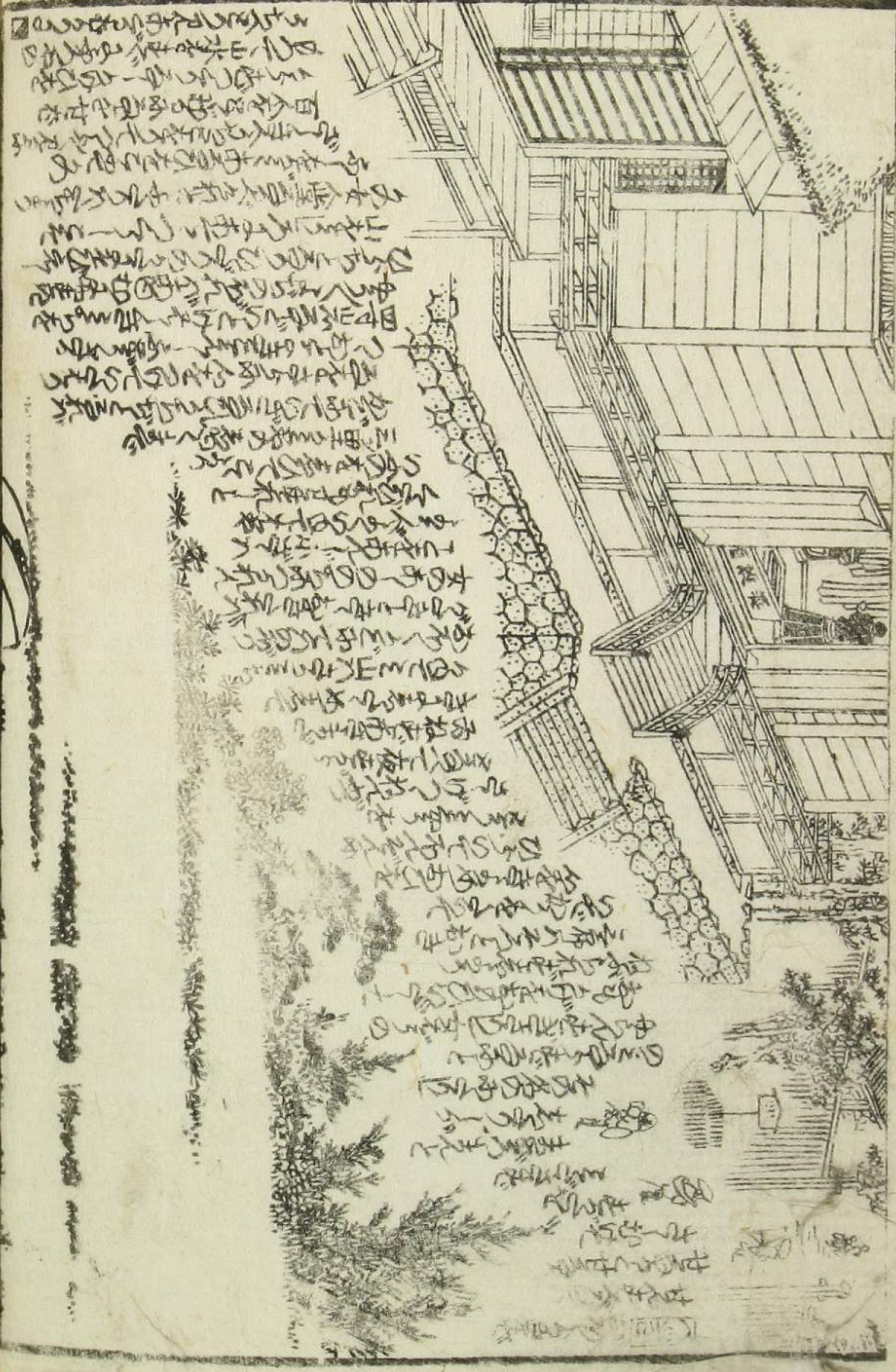


Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style and appears to be a narrative or commentary related to the scene.



Vertical Japanese text on the left side of the illustration, likely serving as a caption or providing context for the scene.

Vertical Japanese text located at the bottom of the illustration, possibly a signature or a specific title.



Vertical Japanese text on the left side of the building illustration, likely a descriptive label or part of a larger text block.

Vertical Japanese text on the right side of the building illustration, continuing the descriptive or narrative content.

Small vertical text on the right edge of the page, possibly a page number or a reference mark.

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the left page.

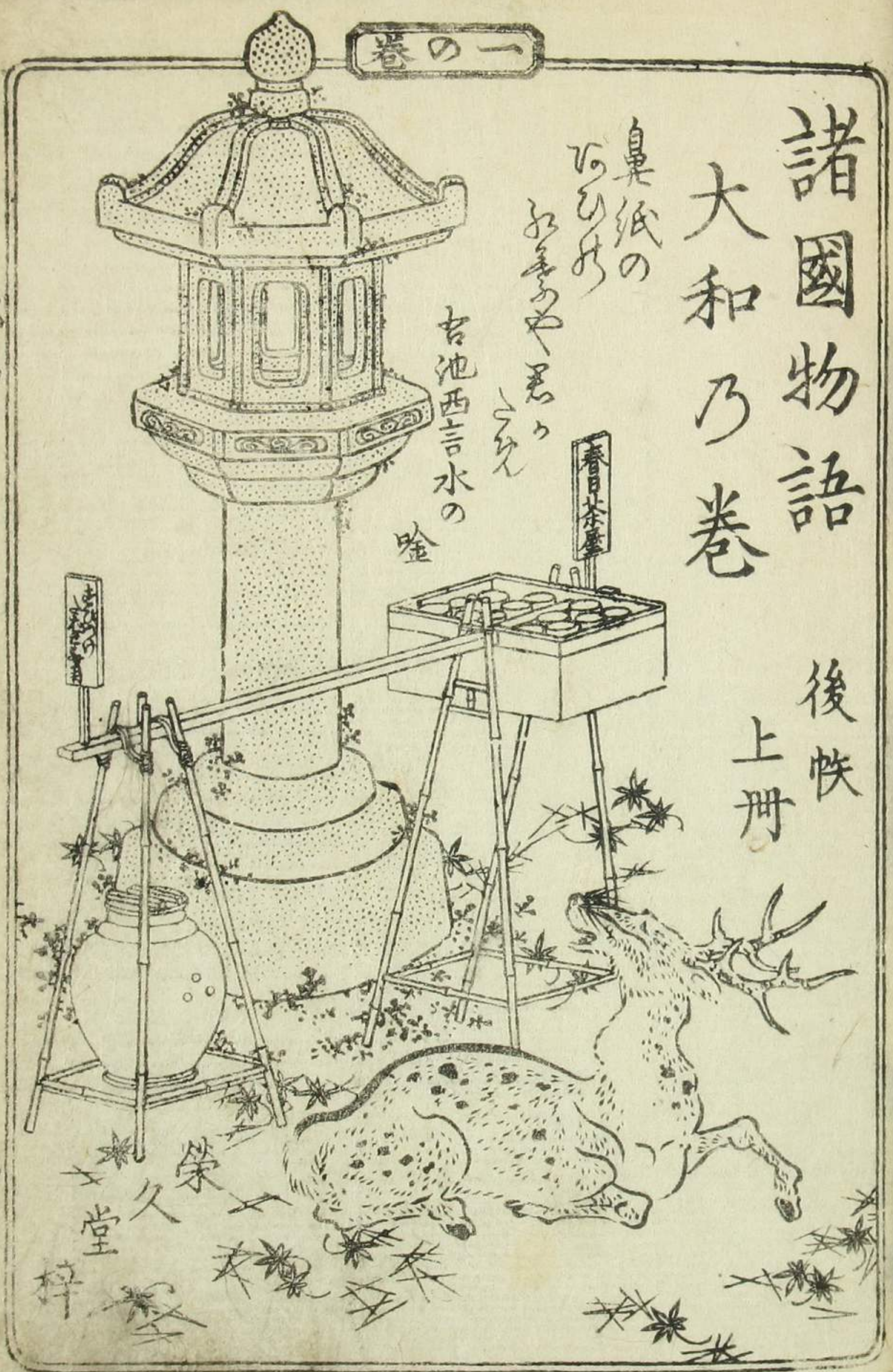


Vertical columns of handwritten Japanese text at the bottom of the left page.

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the right page.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the bottom of the right page.



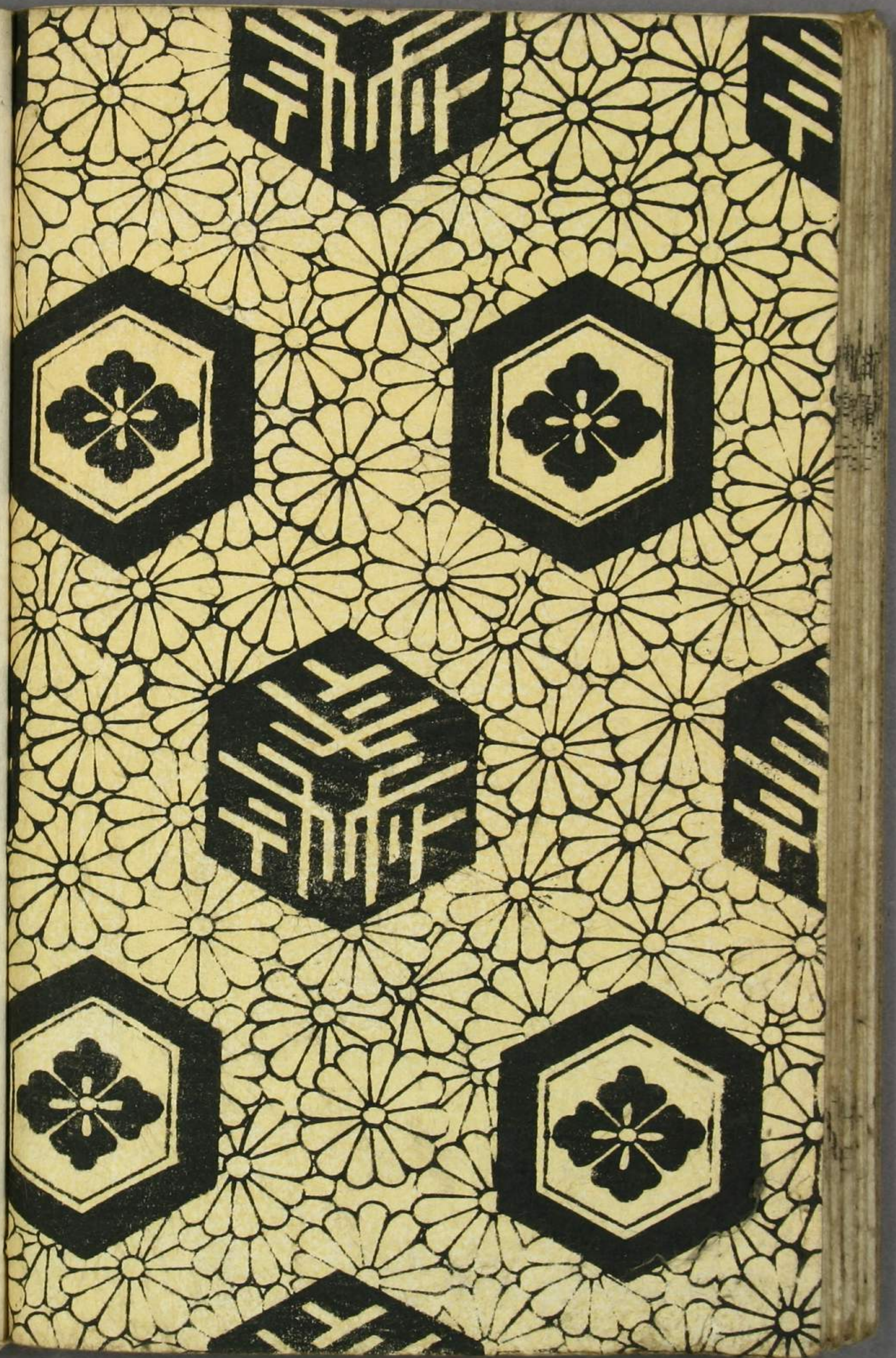
諸國物語
大和乃卷

後帙
上册

鼻紙の
ひひひ
おまのやま
とん

古池西言水の
陰

榮久堂
梓





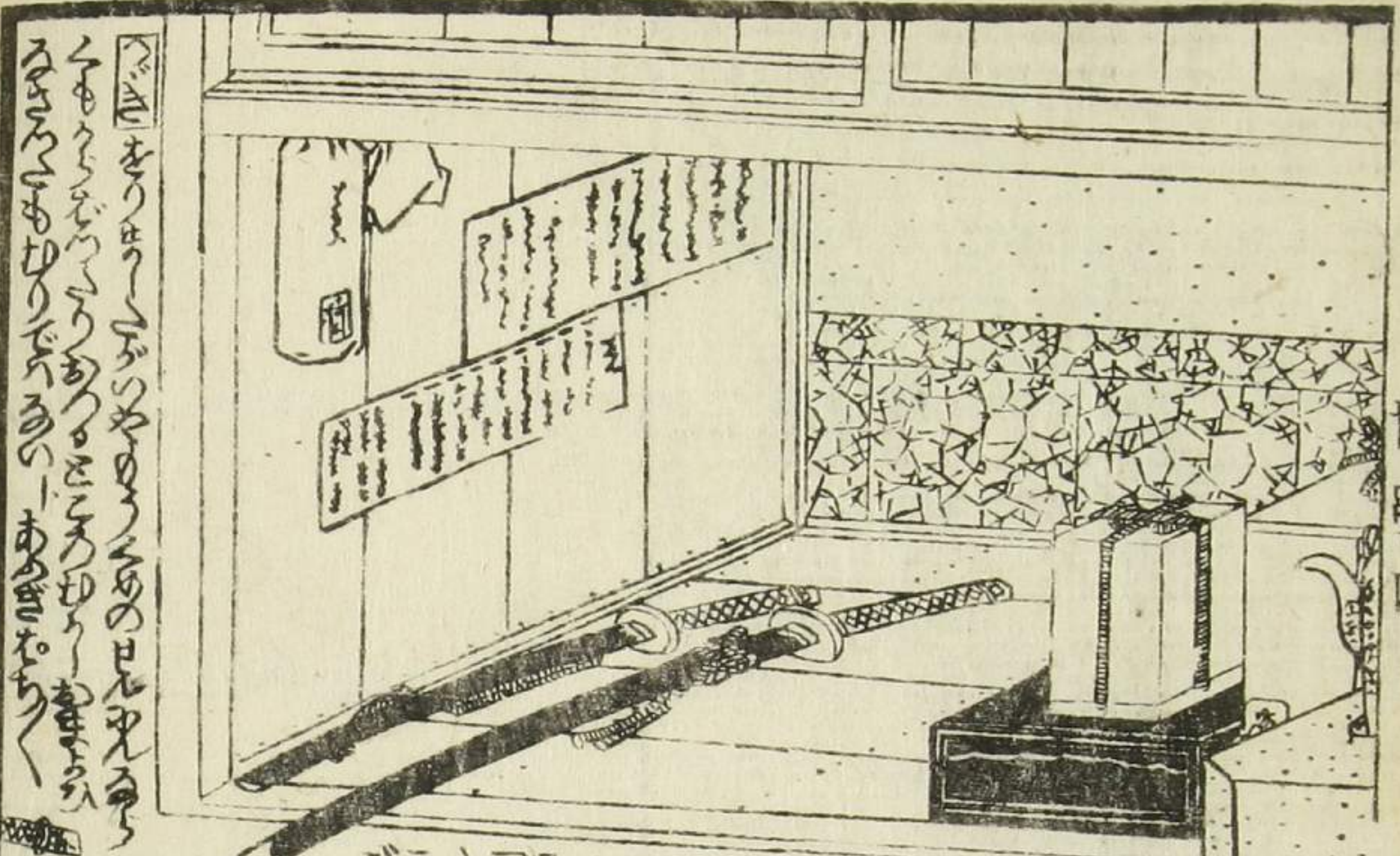
難波新町の娼家
玉拍屋
樓上の
圖



娼家



下野



甘





井原

新泉亭

新泉亭

新泉亭

新泉亭

新泉亭

新泉亭

新泉亭

新泉亭

新泉亭

歌川國貞画 柳亭種彦作



この巻は、古今東西の奇談、異聞、物語、小説、など、さまざまの物語を、歌川國貞の画と柳亭種彦の作詞で、面白く描き出している。巻の初めに、歌川國貞の自序があり、この巻の趣意を述べている。また、巻の最後には、柳亭種彦の跋あり、この巻の完成を告げている。この巻は、江戸時代の通俗文化の一端を、よく表している。また、歌川國貞の画の技術の進歩も、よく表している。この巻は、江戸時代の通俗文化の一端を、よく表している。また、歌川國貞の画の技術の進歩も、よく表している。

邯鄲諸國物語

初編八編 出東 柳亭種彦作
九編十編 新刻 一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃

一陽齋豊國画
新刻編

仙女香七變化粧

十返舎後一 九作
一陽齋豊國画 二編

朧月猫のこけし

一陽齋豊國画
六編七編

竹女一代記

五蘭 齋作
哥川貞秀画 四編

美艶仙女の香

一陽齋豊國画
初編二編 新刻

隅田川月夜見

一陽齋豊國画
式亭小三馬作 二編

黒油美玄香

坂本氏製表

灸榮久堂

江戸芳町親二橋角
山本平吉版

大保丁酉春發販

大和卷後帙

種彦作

國貞画

邯鄲諸國

四編物語

榮久堂梓

